

塚本 一

医療法人社団欣助会 吉祥寺病院 理事長・院長

会うたびに刺激を 与えてくれる行動人

つかもと・はじめ
1984年、帝京大学医学部卒業。社会保険中央総合病院内科勤務を経て、帝京大学病院精神神経科勤務。91年、医療法人社団欣助会吉祥寺病院副院長に就任。99年、院長に就任し2005年より現職。現在、東京精神科病院協会理事、日本精神科病院協会代議員、日本精神科病院協会病院経営管理委員会委員、四病院団体協議会医業経営・税制委員会委員を兼任。



→「医療の質を上げるには健全経営が大前提」と力説する塚本一理事長・院長



↑ 右が佐久間啓先生。オーストラリアの精神科医療体制を視察した際の一コマ。「1週間ほどの日程でしたが、朝から晩までぶっとおして研修。帰国当日、ようやくコアラ見物ができました」(塚本理事長・院長)

撮影=下山展弘

あ

さかホスピタルグループ理事長の佐久間啓先生とは、10年ほど前に日本精神科病院協会の病院経営管理委員会で席を並べてからの付き合いになります。委員会で議論したり、研修に行ったりするほか、家族同伴で旅行するなど、家族ぐるみでお付き合いをさせていただいています。

佐久間先生は現在でもアイスホッケーチームのレギュラーメンバーとして活躍するなどとても活動的で、頭も柔軟です。病院経営では2002年に立ち上げた「ささがわプロジェクト」が知られています。長期療養患者の地域復帰をめざすべく病院を集合居住施設に転換、同時に地域支援センターなどを設けて地域支援体制を整備するものでした。当時としては画期的で、私も含めて仲間皆、肝を抜かれました。

ほかに、障害者と健常者が触れ合える農場を開いたり、事務職員まで含めた年棒制を導入したりと、いつも新しい取り組みを見せてくれます。

一方、佐久間先生が私につけたあだ名は「直角くん」(笑)。一度目標を定めたらそれに向かって突っ走るタイプですので、スタッフにも無理な頼みを聞いてもらっています。佐久間先生とは議論の場ではやりあうこともありますし、性格も経営スタイルも違うのですが、不思議とウマが合います。

立地条件も互いの性格も異なりますから、それぞれの経営スタイルを追究することになりますが、病院経営のよき先輩・仲間としてこれからもよい影響を受けていきたいと思っています。